

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	山梨県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大月市立下和田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	12
児童数	15	13	15	14	16	24		97	

研究の概要

1. 研究主題

心躍り、瞳輝き、その子のよさが生きる授業の創造 ～生きて働く基礎学力の定着を目指して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

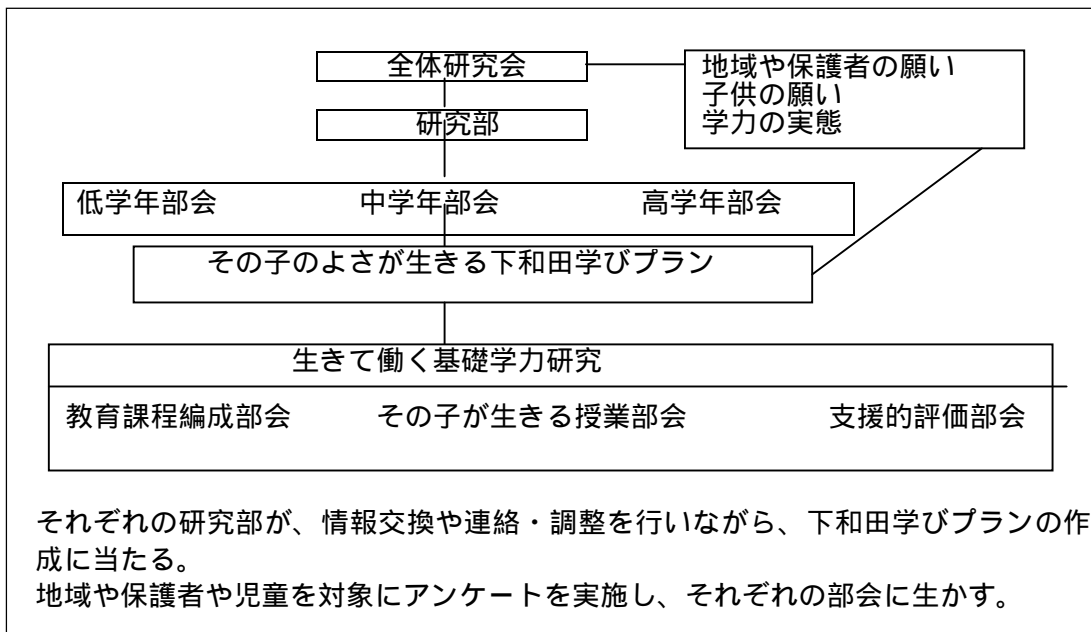
<p>全学年・全教科を対象にして研究実践を行う 生きて働く学力の総合的な部分を大事にし、教科間の関連を図りながら豊かな学力を育てるために、本年度はあえて教科を限定しない。 国語力について重点的に取り組む 国語力はすべての学年、すべての教科の学習の基礎であるため。 児童に対する学力標準検査の結果、読み書きに関する落ち込みが目立った。国語科ばかりでなく全教育活動を通じて国語力の向上を目指すため。 家庭科（教科指定） 生きて働く力がもっとも必要とされる教科であり、身近な問題から課題を見つけて問題解決的な学びを進めるため</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生きて働く基礎学力を育てる授業の創造 研究の見通し その子らしさの生きる教材を開発し、子ども自らの意思によってそれらが学ばれるような学習の方法を工夫することによって、生きて働く基礎学力が身につくであろう。 研究の内容・方法</p>
	<p>(1) 育てたい学力（確かな学力・生きて働く基礎学力）の内容について検討する (2) 生きて働く基礎学力にふさわしい教科の基礎的基本的な学習内容を吟味・検討し、教育課程の再編成を行う。 (3) その子のよさが生きる教材の開発や効果的な指導法について実践研究を行う。 (4) その子の意欲に支えられた学びが立ち上がるような評価の内容や方法について研究し「支援的評価プラン」を作成する。 (5) 教育課程と支援的評価プランとの関連をはかり、「その子が生きる下和田学びプラン」を作成する。 (6) 標準学力テストを2回実施し、追跡調査による比較検討を行う。</p>

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>生きて働く基礎学力を育てる授業の創造</p> <p>研究の見通し</p> <p>下和田プランの実践、検証を行うことによって、より生きて働く基礎学力を身につけた子どもを育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 下和田プランの実践、検証</p> <p>(2) 学力の追跡調査とその分析および、課題解決に向けての取り組み</p> <p>(3) 個に応じた指導の時間(学力充実タイム)運用の工夫改善</p> <p>(4) 朝の読書の時間、放課後学習の工夫</p> <p>(5) 小集団指導、習熟度別指導、教科担任制による指導、T Tによる指導等の導入・工夫・改善</p> <p>(6) 地域との連携</p>
----------------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<p>成果</p> <p>(1) 下和田学びプランの作成によって、具体的な授業の姿や評価の方法について明確になり、実践に結びつけやすかった。</p> <p>(2) 標準学力テストの年度始めと終わりの2回の状況についての比較検討を通して、学びプランの課題や、児童の学力の課題や、指導方法の課題について、見直すことができた。</p> <p>(3) 地域、父母、児童を対象にした「学びアンケート」の実施によって、何をこそ育てなければならないのかが明確になった。</p> <p>(4) 国語力の育成について重点的に取り組んだことによって、授業における児童相互の学びあいの姿や意欲の向上が見受けられた。</p> <p>(5) 習熟度別による指導や、教科担任制や、T Tによる指導や、担任を限定的に変えての指導などを試みることによって、児童の学ぶ意欲の向上が見られた。</p> <p>(6) 国語力の育成や児童相互の学びのつながる関係をはぐくむための教育課程の編成ができた。</p>
---

## 2. 今後の課題

- (1) 効果的な学習方法について、検討する必要がある。小集団学習にしても、習熟度別指導にしても、教科担任制にしても、T T指導にしても、そのことが本当に学びにとって有効かどうか、またより有効になるような研究を進めなければならない。
- (2) 国語力の育成について、いっそうの研究実践が必要である。国語力は単に国語という教科の中だけの問題ではなく生きて働く基礎学力にとって大事な要素であり、その内容の検討や育成の方法について実践を通して検証しなければならない。
- (3) 支援的な評価についての方法は、定着しつつあるが、自己評価能力を高め、児童の自尊感情をはぐくむ取り組みが必要である。
- (4) 家庭や地域とのいっそうの連携が必要である。そのための教育懇談会や学び研究会などの組織の立ち上げが考えられる。
- (5) 授業研究会のあり方について、カルテや児童の見取りに基づいた研究協議がもてるように研究を深めていく必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

学力調査  
 標準学力調査と学習意欲調査（年2回 5月と1月）  
 カルテによる学習状況の見取りとデータの蓄積  
 毎日その結果を報告し、課題のある児童についての指導方法やかかわり方について協議しあう時間を設定  
 学びノート  
 その子がその日に輝いていた学びの姿について毎日記録。担任や子どもだけでなく家庭でもその子のよいところを記入。  
 診断テストと発展ワーク  
 国語と算数について単元ごとの診断テストを実施。その結果に応じてワークシートを利用している

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地域の学校への学びプランや研究紀要の配布  
 学校・学年便り等での地域や保護者への情報発信  
 ホームページについては現在作成中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |  |   |  |  |
|----------------------|--|---|--|--|
| 【新規校・継続校】            | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校   | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校   |  |  |
| 【学校規模】               | <input checked="" type="checkbox"/> 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上   | <input type="checkbox"/> 7～12学級<br><input type="checkbox"/> 19～24学級   |  |  |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導<br><input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制                                   | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導<br><input checked="" type="checkbox"/> その他                                     |  |  |
| 【研究教科】               | <input checked="" type="checkbox"/> 国語<br><input checked="" type="checkbox"/> 生活<br><input checked="" type="checkbox"/> 体育 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会<br><input checked="" type="checkbox"/> 音楽<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数<br><input checked="" type="checkbox"/> 図画工作 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科<br><input checked="" type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有  | <input type="checkbox"/> 無  |  |  |